



地域連携推進センターの令和元年度の活動について

別府大学文学部人間関係学科
教授 西村 靖史

① 地域連携推進センター活動の概要について

学校法人別府大学では、大分県や県内18市町村との包括交流協力協定を締結し、大分・別府に所在する地方の大学・短大として、“地産地將（地域で産み育て、地域の将来を担う人材を育成する）”を目標に、産官学が連携することで、学生は地域の活性化やそれに伴う諸問題を理解し、日々の学修に生かし、将来の解決をすべく様々な視点から取り組み、学ぶことが可能となる教育に取り組んでいる。

加えて大学では、文部科学省の補助事業である地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（COC+）において協力校として参加し、様々な事業に協力し、大分県内における人財育成に取り組んでいる。

別府大学・別府大学短期大学部地域連携推進センターは2014（平成26）年7月に、従来までの地域連携委員会としての活動を解消し、「地域に学び、地域に貢献できる大学」を継続していく別府大学・別府大学短期大学部の全学的な地域連携推進の組織として整備された。

本稿では、令和元年度における地域連携推進センターが関わっている事業について若干の整理をし、いくつかの特色的な活動を報告し、今後の展開について検討する。

② 別府大学・別府大学短期大学部の地域連携事業

地域連携事業については、学生のボランティアの参加要請から、教員個人が自治体や企業などからの要請を受け、講師や委員などとして委嘱されるものや、研究を主体とする事業に至るまで、多岐にわたる。別府大学・別府大学短期大学部では毎年、これらの実績について、「地域連携・社会貢献資料集」に取りまとめ報告している。

別府大学・別府大学短期大学部地域連携推進センターが令和元年度に関わってきた地域との交流事業の内容について表1に整理した。この表での主な整理のポイントは、学生が参加している事業で、地域連携推進センターとして若干の予算的な支援を行っているものや、学生動員の拠点としてはたらしきを持ったものについて、連携先により、県や市町村といった自治体、地域の企業、市民一般対象のもの順に、挙げている。

1) FES ((Food Education Supporter, 学生食育推進サポーター) 活動は、「学生の健康は学生の手で」をスローガンに本学食物栄養学科と立命館アジア太平洋大学の学生さん、大分県東部保健所を中心とした学生食育活動推進サポーター育成事業として平成25年より食育カフェの実施や、地元産品・郷土料理を用いた朝食の提供、シイタケ生産現場体験ツアーなどを実施している。学生食育推進サポーターとしての活動には、東部保健所の実施する3日間の実習の受講によって学生食育ボランティアの修了証書が贈られる。FESでは、またFacebookの公式ページ(図1)やTwitter、

事業名称	連携先
別府大学 FES（学生食育推進サポーター）活動	大分県東部保健所
Lamar University との美術交流	別府市
平成30年度市民・学生大同窓会	別府市
きつき城下町資料館におけるボランティア活動	杵築市教育委員会
授業「英作文4」学外授業・翻訳作業	杵築市教育委員会
田染荘景観保全支援隊	豊後高田市
竹田市岡大豆復興プロジェクト	竹田市
竹田市久住神社夏越祭り	竹田市
竹田市宮城地区小松明祭り	竹田市
おおいたゴールデンフェスティバル	大分市
令和祝賀マーケット（延岡市）	のべおかわくわくマーケット実行委員会
「湯～園地」ボランティア	株式会社ラクテンチ
24時間テレビボランティア	テレビ大分
公開講座「九州学」	市民公開講座
別府“温泉”大学特別講演 「油屋熊八の世界から別府の未来を語る」	市民公開講座

表1. 令和元年度地域連携推進センターの関係する主な地域連携事業

Instagram の連動など、学生中心に複数の大学の学生たちへの呼びかけや情報提供など（写真1）を積極的に行っている。

2) Lamar University との美術交流

6月、別府市と姉妹都市である米国テキサス州ボーモント市との国際美術交流の一環として、ボーモント市のラマー大学のグレグ・ブシュメ（Greg Busceme）氏が本学において陶芸の授業と制作を実施した（写真2）。

この交流では別府滞在中に制作したグレグ氏の現代陶芸作品と、本学講師で伝統工芸士でもある二代目岩尾豊南先生による別府竹細工のコラボ展である「別府竹細工とセラミックアートのコラボ



写真1. 別府大学キャンパスで実施された FES 活動「食育カフェ」



図1. FES の Facebook ページ



写真2. 学生たちに指導中の Greg Busceme 先生

展」を企画し、ベップ・アート・マンス2019のプログラムとして2019年10月7日～19日の期間、本学の佐藤義詮記念館2階ギャラリーホールにおいて実施された。この企画には先生方に教えを受け、本学の芸術表現コースの学生たちの制作した作品や授業風景も同時に展示し、一般公開を行った。

3) 平成30年度の市民・学生大同窓会は別府市文化国際課、別府市産業連携・協働プラットフォーム B-biz LINK、別府市内大学の連携による別府市『Welcome Back !!! 市民・学生大同窓会』実行委員会による、別府にゆかりのある人々が一堂に会し、別府の未来を見つめ育むことを目的に、別府で学んで市外や海外に出た人たちに、もう一度別府に戻ってきてもらうイベントとして企画された。また市内の多くの方に参加いただけるよう、カレージャンボリーといった食のイベントも同時開催され、実施された。

企画の中では「One Beppu Dream Award」と銘打たれた若者ビジネス企画コンテストなどが実施され、深夜まで各大学の在学生・卒業生の交流が行われた。今年度も実施の予定であったが、残念ながら感染症の対策により延期となっている。

4) きつき城下町資料館におけるボランティア活動および授業「英作文4」学外授業・翻訳作業

杵築市教育委員会との協働で大学の授業の「英作文4」の一部の学外授業として実施された。2回の学外授業では城下町資料館学芸員より歴史の話などの説明を受け、城下町散策を行った。これに続いて、パンフレットの英訳から、外国人向けのマップ作製のために、留学生と町を散策し、杵築の武家屋敷などを歩いて、マップを作製した。

さらに資料館展示の説明の英訳も2年間で完了、学生が訳したものを取りまとめる作業をボランティア学生と本学教員の三重野先生や翻訳作業の確認にオカナー先生の協力なども得て、完成している。



写真3. 収穫祭の様子。景観保全を目的とする本事業では伝統的な衣装も地域の協力で経験できる。

5) 田染荘景観保全支援隊

豊後高田市田染地区の重要な文化的景観保存に協力するとともに、御田植祭りや収穫祭に参加し、田植えや稲刈りなどの農業体験を通して、環境歴史学の自然と人間の関係を学生が実感できる場として、環境歴史学概論の授業の一環として、またゼミの課外活動などとして取り組んでいる(写真3)。

6) 竹田市では竹田市、そして挑戦(トライ)の頭文字であるT、オリジナルのO、プロジェクト、パワーの頭文字Pに由来する「TOP運動」を推進し、竹田市独自の「地域力」、「人間力」、「行政力」、「経営力」をフルに発揮して政策を展開することを目指しており、このTOP運動に基づくオリジナリティあふれるオンリーワンの政策を推進し、「大学のないまちに大学生があふれ、学び集う竹田」を目標として、県内4大学等と協力協定を締結している。大学等の人的・知的資源の活用による学術的ノウハウの提供と、竹田市の潜在能力や価値を学術研究のフィールドとして提供・協力することにより、相互に連携した課題解決と相互の発展、また地域を担う人材育成を目指し、市役所内に大学連携窓口を設置して大学・市民からのニーズを取り上げ、両者の学術的・文化的交流を推進するとともに、学生の竹田市での拠点づくりを進めている。

別府大学は、2011(平成23)年12月2日に竹田市の旧双城中学校跡地約3万平方メートルの敷地に、鉄筋コンクリート2階建て建物(旧校舎)と宿泊可能な研修棟(新設)からなる「別府大学文化財研究所竹田センター」をオープンし、継続的

な地域連携を行っている。

竹田市では竹田市久住神社夏越祭り、竹田市宮城地区小松明祭り、岡大豆復興プロジェクト、の3連携事業を竹田市大学地域連携推進協議会、竹田市との連携事業として実施してきた。

久住神社夏越祭りは久住神社も加わった連携事業で、夏越祭りの神輿御神幸の神輿担ぎの学生ボランティアの参加を実施した。

宮城地区小松明祭りは竹田市宮城地区で行われる虫追い行事と盆の送り火が結びついた祭りである小松明祭りと呼ばれる祭りで、灯油を入れた松明を田んぼの畔に立て、虫を払うために火を灯す。松明の作製から、配置、点灯までを学生ボランティアが協力をする事業である。この地域では、昼食や松明点灯後に地区の方々との交流会なども用意され、学生と地域に住む方々との交流の場となる。2019（令和元）年度は残念ながら台風10号の接近により中止となった。

岡大豆復興プロジェクトは、竹田市の伝統的作物であった岡大豆について、その商品価値の検討や、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構遺伝子資源センターより提供を受けた国登録の岡大豆種子の試験栽培や既存の岡大豆の比較、食品としての活用例を検討し、特産品の開発などを目指して、大学の史学・文化財学科、食物栄養学科、短期大学の教員・学生によって栽培



写真4. 久住神社「夏越祭り」の神輿担ぎ

や調査をはじめ、味噌や豆腐など加工食品への活用などが取り組まれている。

毎年、収穫祭に合わせて別府大学文化財研究所竹田センターにおいて、座談会として岡大豆の栽培や調査結果の報告などがなされ、竹田市議や市職員、竹田市大学地域連携推進協議会の皆さんと、地元の方が作ってくれた食事をとりながら交流を図っている。

7) おおいたゴールデンフェスティバル（大分市）・令和祝賀マーケット（延岡市）

4月27日～5月6日のゴールデンウィークに大分駅前の中央口広場において実施された九州ビアフェスに連動して、実施された食のイベントに発酵食品学科の宣伝も含め、発酵食出店参加を願った。発酵食品学科の教員・学生により温泉水あまざけや夢香米などの展示を行った（写真6）。

また、のべおかわくわくマーケット実行委員会に所属する別府大学卒業生から声掛けをいただき、10月22日に延岡市サンロード栄町で開催された令和祝賀マーケットに発酵食品学科の教員や別府大学温泉同好会の学生を中心としたチームにより、温泉の地熱を使った加工品として、温泉水あまざけやクッキー、特製レトルトカレーの販売を行った（写真7）。

延岡市への出展は、隣県である宮崎県内に対する別府大学の情報戦略も兼ねて、参加を願った。

8) 「湯～園地」ボランティア

昨年実施されたべっぶ湯～園地の実施を株式会社ラクテンチと市内のボランティア団体との協働で実施するにあたり、ボランティア学生による「宿題かけこみ部屋」企画を実施した。企画内容



写真5. 平成30年度に実施した小松明祭りの点灯風景

に対して、短期大学部初等教育科から教員・学生の支援も受け、学生は2日間にわたって、県内外の子どもたちに対応した（写真8）。また湯～園地のアトラクション運営にも他団体と協力し携わった。

9) 24時間テレビボランティア

株式会社テレビ大分（TOS）の運営する24時間テレビのボランティアスタッフとして参加した。参加学生はTOSに開設されたブースを他団体のボランティアの方々と協力して、24時間にわたり運営していく。時間帯を区切って参加する学生から、24時間継続して参加する学生まで、全員、体調管理に十分気をつけながら支援を行った（写真9）。

10) 公開講座「九州学」

令和元年度の九州学は、「九州を発光させる」をテーマとして、九州の特性を踏まえ、そこに光を当て観光、文化、産業の魅力を引き出す企画とし、大学内外から九州の特性、魅力を語れる公開講座を実施した。中でも本年度は別府大学とポールヴァレリー大学との共同研究から、国際シンポ

ジウム「世界遺産への道宇佐とローマをつなぐ」を九州学の中で開催し飯沼賢司別府大学学長、ポールヴァレリー大学准教授マルティヌ・アセナ氏、ポールヴァレリー大学准教授アントワヌ・ペレス氏、別府大学名誉教授山本晴樹氏によるシンポジウムを実施した。

また、発酵デザイナーの小倉ヒラクによる「社会に発酵の価値を埋め込むイノベーション」では発酵という文化の持つ魅力と地域の間接的な感性で伝えられた。

この九州学では九州に関する視点が国際的な視点やきわめて狭いエリアの深い情報に至るまで、多岐にわたる話題が提供されている。

11) 別府“温泉”大学特別講演「油屋熊八の世界から別府の未来を語る」

同じく公開講座として提供されている「温泉学概論」には、今年より別府市議会の議員の方の参加もいただき、別府の温泉についての知見を得る場として一助になっている。

12) 別府大学では別府“温泉”大学とした広報活動を開始し飯沼学長自ら出演する YouTube 動



写真6. ゴールデンフェスティバルの出展風景



写真8. 湯～園地における宿題かけこみ部屋のボランティア風景



写真7. 令和祝賀マーケットにおける販売風景



写真9. 24時間テレビボランティア

画などを作成し展開している。この企画として、2018年9月に本学客員教授のクニトシロウ氏の漫画絵本『ピッカピカのおじちゃん—別府観光の父油屋熊八』の出版記念として実施予定であった「油屋熊八の世界から別府の未来を語る」も、今年度2月23日に実施をすることができた。この企画ではトークショーとして、ゲストに別府市長の長野恭紘氏、漫画家・コメンテーターのやくみつる氏、漫画家・別府大学客員教授のクニトシロウ氏に、飯沼賢司学長がコーディネーターを務めた。また、同時開催企画として18号館2階ギャラリーホールにおいてクニトシロウ原画展や学内の温泉施設の源泉かけ流しの温泉を「手湯」で楽しんでもらう企画、本イベント限定の別府八湯温泉道スタンプの提供、漫画絵本『ピッカピカのおじちゃん—別府観光の父油屋熊八』と温泉水あまざけの販売などを実施した。

地域連携推進センターが関わってきた本年度実施された事業について、その概要をまとめた。

2 別府大学・別府大学短期大学部地域連携推進センターの活動のこれから

別府大学・別府大学短期大学部ともに、教育機関としての歴史の中で多くの専門的な資格を持つ有意な人財を、大分県をはじめ九州、西日本や韓国・台湾・中国など諸外国に送り出してきた。教育・研究活動において、地域との多様な連携は、その全体像を把握するにはあまりに複雑であるように感じている。

今後は、広報室とも密に連携を取り、地域との連携についての情報収集をより確実に行っていきたい。また、別府市との連携について積極的に実施していく計画である。

これからの地域連携では、連携のためのプログラムの開発や課題解決型の地域連携PBL、さらに学部横断型プログラムの開発によって、全学的な学生の学びと教職員の協業により新しい価値が生まれてくることを期待している。

一方で、地域で学ぶ、学びとは何かという教育的成果(=評価)の可視化についても検討してい

く必要性を感じている。

学部横断型プログラムとして、令和2年度より開設された地域社会連携PBL1、地域社会連携PBL2、地域社会連携PBL3では、問題解決型学習(Project Based Learning)として「正解のない議論(課題)を通して問題解決へのアプローチ方法を身につけること」を目的とし、最終的に「主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力」を養うことを目指す。特に、これらの授業においては、地方自治体や企業などの協力を得て、別府市などを中心とした実社会における様々な課題について考え、SDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)への対応を視野に入れた社会実装までを目指した社会的学びの場となる授業の展開を計画している。

授業の到達目標として、到達目標1は、問題に出会う(テーマを決める)、到達目標2は、どうしたら解決できるのか実践的・論理的手法によって考える、到達目標3は、相互に話し合い、何を調べるのか明確にする、到達目標4は、自主的に学習し、新たに獲得した知識を問題に適用する、到達目標5では、学習したことを要約することとしている。評価は、地域における実践的な活動への参加時間、参加内容(打合せ、会議、事業、報告会など)、連携先の担当者による評価などを総合的に、評価項目として設定し、総合的に評価をおこなう。

また、これまでの地域との連携に加え、別府市や別府商工会議所との関係をより密接な関係を構築する目的で新たな交流協定の整備として、「湯のまちべっふ共同推進協定書」の締結や、ふるさと納税制度を活用した、湯のまち別府ふるさと応援寄付金を活用した事業の展開など、より近接したフィールドを活用した学びの場作りを計画している。

世界的にも稀な自然環境と、この地域が育んできた歴史や文化を様々な切り口から、本学の持つ専門的な研究領域を複合的に活用し、教員と学生が協同して持続可能な社会へ向けた実践的学びを展開し、社会実装を目指す取り組みを次世代へ受け継いでいく試みが、始まる。